



# 六桜花

やさしく かしこく たくましく  
～未来を創造的に生きる力の育成～

有田市立  
初島小学校  
(校長室だより)

R7・9・26

No.43

## 体育実技講習 リレーバトン受け渡し

有田市出身で陸上競技の専門家である大阪経済大学准教授(コーチング学)九鬼靖太先生にお越しいただき、運動会で行うリレーのバトン受け渡しを教えてくださいました。

5・6年生が1時間目、3・4年生が2時間目に教えてくださいました。運動会本番までしっかり反復練習します。当日、練習の成果を発揮し、上手くバトンが繋がるか楽しみです。



少し難しかったようですが、丁寧に教えてくださいましたので本番まで練習頑張ります。

長文になりますが、ぜひ、最後まで読んでください。【心が技術を超えなければ……】

「どうしたらいい大人になれるのか」という子どもの問いにきちんと答えられるか……。

日本講演新聞 社説3075号(2025/06/16)  
心が技術を超えなければ……

魂の編集長 水谷謹人

数年前に取材した教育講演会で、どこかの大学の先生が小学6年生の作文を紹介したことがあった。こんな内容だった。

ある日、母親から「声変わりしたんやないか？」と言われた。自分では意識したことがなかったので、「そうかなあ」と答えた。別の日、友だちから「ケンちゃん、声変わりしたね。にきびまで出てきたな」と言われ、驚いた。

家に帰って鏡を覗くと本当ににきびがあった。こっそり自分の声を録音して聞いてみた。今まで聞いたことのない太い声だった。

数日後、親戚のおじさんから、「ケンジ君、大きくなったな。髭も濃くなったな」と言われ、恥ずかしくなった。

ある日の夜、お風呂に入っていたら陰毛を見つけた。10本くらい生えていた。そして彼は作文の最後にこう綴っていた。

「ぼくは大人になりはじめているんだなと思った。体の変化が一遍に出てきてドキドキしたけど、いい大人にならなきゃいかんと思っている。でも、どうしたらいい大人になれるのか、ちゃんと知りたい」

純朴で、素直な少年の声である。

本人が自覚しようがしまいが、体は勝手に大人になる。しかし、心はどうだろう。

放っていても心は勝手に大人になってはくれない。例えば、2、3歳児の特徴の一つに「わがまま」がある。相手の都合を考えず自分の思いどおりに振る舞うことだ。物心がついたばかりの頃はみんなこの状態だ。ここから心の成長が始まる。

親や祖父母、兄弟姉妹、幼稚園や保育園に入れば先生や同世代の友だちなど、いろんな人間関係にもまれて、少しずつ心の「角」が取れ、丸みを帯び、相手の気持ちを考えて行動したり、少々のは我慢をしたり、みんなのお役に立てることを喜びに思えたりするようになる。

ところが、そのような「年齢に応じた発達課題」をうまくクリアできずに幼少期、青少年期を経てしまうと、心は「わがまま」という幼児性を持ったまま、知恵や腕力だけは一人前の大人に育つ。そういう人は自分の思い通りにならないと相手を執拗に責めたり、暴力を振るったりする。周りの人を幸せにしないばかりか、自分も幸せになれない。

それを知ってか知らでか、冒頭に紹介した小学6年生の少年は、「体は勝手に大人になっていくが、果たして自分はいい大人になれるのだろうか。どうしたらいい大人になれるのか、ちゃんと知りたい」と声をあげた。

これを大人の側から考えると、「何をどうすれば子どもの心は育つのか？」ということになる。

学校教育で知識や技術は授けられるのだが、心ともなると教師はその専門家ではない。やがて義務教育の階段を一段ずつ上っていくうちに、「立派な社会人に育てよう」という目標にすり替わっていく。子育てや教育の最終目標が「将来、何になりたいか？」という職業になってしまうのだ。自

立して、仕事をして、食べていける、そんな社会人になった姿を見て、「立派になった」と親も先生も安心するのである。

この度、高知県の、とある施設の一角に本紙コラム「人生繁盛」の執筆者、中村信仁さんの石文（いしぶみ）が建立された。大きな石に刻まれていた言葉は、「心が技術を超えない限り、決して技術は生かされない」だった。

ここに込められている思いは、例えば、「医者として立派な技術をお持ちだが、人間としてはどうなのか？」「スポーツ選手としては一流だが、人間としてはどうなのか？」「タレントとしては国民的スターかもしれないが、人間としてはどうなのか？」「政治家としては立派な仕事をしているが、人間としてはどうなのか？」ということだろう。

全ての職業で心のレベルが技術のレベルを超えていないと、今は良くて、いつかどこかで必ずボロが出る。昨今のニュースで誰もが目にしている光景だ。

大人になっても学び続けよう。職業人としての学びは知識や技術だが、人間としての学びは感性を磨くことに他ならない。日本人が大切にしてきた伝統文化に触れたり、自然の中に身を置いたり、神社仏閣に足を運び手を合わせたり……等々。

「どうしたらいい大人になれるのか」という子どもの問いに答えられる生き方を見せなければ……。

**自立して、仕事をして、食べていける、そんな社会人になった姿を見て、「立派になった」と安心していいのか…。「人間として…」**

**根本として教育の目的は「人格形成」である。我々大人の生きざま・姿で問いに答えたい…**

**初島小では、引き続き「やさしく かしく たくましく」教育目標の達成を目指していく。**